

# 注意!

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。  
■文中で旧 URL(<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL(<http://i-agri.net>) に読み替えてください。

## 平成 16 年度病害虫発生予察情報 特殊報 第 3 号

平成 16 年 12 月 14 日  
岩手県病害虫防除所

### インパチエンスえそ斑紋ウイルス (INSV) によるリンドウえそ斑紋病の発生について

#### 1. 発生概況

- (1) 平成 16 年 5 月に、北上市で栽培されている鉢物わい性リンドウ ももこりん と あおこりん において、葉にえそを生ずる症状が発生した。
- (2) (財)岩手生物工学研究センターにおいて、発症株を RT-PCR 法で検定したところ、インパチエンスえそ斑紋ウイルス (INSV) が検出された。さらに、岩手県農業研究センターにおいて、分離ウイルス株の戻し接種により病徴が再現され、新病害の「リンドウえそ斑紋病」であることが明らかになった。
- (3) 本ウイルスによる被害は、他作物も含めて県内では初確認となる。

#### 2. 病徴

- (1) はじめ葉に退緑斑紋を生じ、後にえそ斑を形成する。下位葉から発生し、展葉とともに上位葉へと進展する。草丈の伸長は遅延する。株全体での発生はまれで、茎立ちした数本の茎葉に発生する。(図 1)
- (2) 採穂用親株の加温開始 2 ヶ月後 (3 月、採穂時期) 頃から 6 月まで発生がみられる。高温となる夏期には発生が停滞するが、気温が低下する 8 月下旬から出荷期にかけて再び発生する。
- (3) 本症状は、採穂用親株およびその挿し木苗にみられる。



#### 3. 病原と伝染

- (1) 本ウイルスは、広い寄主範囲をもち、主に施設栽培の花き植物 (インパチエンス、シクラメン、トルコギキョウ等) に発生し、葉にえそ、退緑およびモザイク症状を生ずる。
- (2) ミカンキイロアザミウマなどのアザミウマ類が媒介する。
- (3) 保毒親株からの栄養繁殖で被害が拡大すると考えられる。種子伝染および土壌伝染は現在のところ報告されていない。



#### 4. 防除対策

- (1) 定期的に親株を更新する。
- (2) 罹病植物は伝染源となるので、速やかに埋没または袋などに密閉して処分する。
- (3) 媒介虫であるアザミウマ類の防除を徹底する。
- (4) 圃場内外の雑草や不必要な花き類等は、アザミウマ類の増殖源になるので除去する。

#### 5. その他

INSV は、多くの施設花きに被害をもたらすため、リンドウだけでなく他作物でも今後の発生に注意が必要である。

図 1 病徴

A : 数本の茎葉に発生する。

B : 葉に発生した斑紋及びえそ斑

<参考>

1. 現在までの本ウイルスによる病害の発生報告について

平成 11 年	静岡県	: バーベナ
	岡山県	: シネラリア, インパチエンス, ベゴニア, トマト
	福岡県	: インパチエンス
平成 12 年	秋田県	: トルコギキョウ, インパチエンス, ニューインパチエンス, シクラメン
	神奈川県	: フロックス, ミムラス
平成 13 年	栃木県	: シクラメン
	山口県	: シクラメン, ベゴニア
	長野県	: トルコギキョウ
	山梨県	: シクラメン
	群馬県	: シクラメン
平成 14 年	千葉県	: インパチエンス, トウガラシ, ペチュニア, ベゴニア, クロサンドラ, クリスマスローズ, トレニア, シクラメン
	長野県	: シクラメン
平成 15 年	宮城県	: シクラメン
	埼玉県	: シクラメン
	佐賀県	: インパチエンス, ディアスキア, ネメシア
	北海道	: トルコギキョウ
	埼玉県	: シクラメン
平成 16 年	福島県	: シクラメン